

## 平成30年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 【学校像】

「高い志」を持ち、「真のリーダーシップ」を発揮しながら世界で活躍する人物を輩出する学校。

## 【生徒に育みたい力】

- 基礎・基本の充実と深い学びを通じて未来を拓く力を養い、「高い志」を持って世界に貢献できる有為な人物を育成する。
- ハイレベルな授業を通じて進路実現を可能にする高い学力を養成すると同時に、学校行事や部活動への積極的な参加を奨励し、たくましい人間力を育成する。
- 知的探究心をもって自主的に学習する力を養成すると同時に、互いに協力しつつ切磋琢磨することを通じて、優れたチームワーク意識と高い自治能力を育成する。

## 2 中期的目標

- グローバルリーダーズハイスクールとしての特色づくりのため、3つの教育目標を深化させる取組みとともに教員の授業力向上のための取組みを実践する。

## 1 「高い志」の涵養を図る教育システムの再構築

- (1) グローバルに視点を置いた取組みを継続発展させる。
    - ア 海外宿泊野外行事及びその事前学習、事後学習を通して多様性受容力を鍛え、コミュニケーション能力を高める。
    - イ 英語教育の内容をより一層充実させる。
  - (2) 「高い志」を涵養し持続させるための取組みを継続発展させる。
    - ア 卒業生人材ネットワークを拡大し、卒業生による支援体制を強化する。
      - ① 大学教授、企業等で活躍する卒業生等による「卒業生講座」「学問発見講座」。
      - ② 京都大学を中心とした「卒業生研究室訪問」。
      - ③ 関東方面への大学見学会「東京スタディツアー」。
      - ④ 第1学年対象の「スプリングセミナー」。
      - ⑤ 第2学年対象の「オータムセミナー」。
    - イ 課題研究等を通して主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせ、大学での学びにつなげる。
- ※東京大学、京都大学、大阪大学、神戸大学の合格者数合計（平成29年度103名）を平成30年度に120名以上に戻し、以降それを維持する。  
※高等学校卒業時の進路選択について納得している生徒の割合92%以上を維持する。

## 2 「二兎を追うたくましさ」を育成するための教育システムの再構築

- (1) 授業重視と自学自習の意識を高める。
  - (2) 3年間を通した育成計画「北辰プロジェクト」を充実させるとともに、それに基づいて生徒にめあてを提示する。
  - (3) 学習と部活動・学校行事の両立への意識を高める。
    - ア リーダー育成研修を継続させる。
    - イ 理学療法士による部活動サポート事業を継続発展させる。
- ※1, 2年生の一年間の読書量（平成29年度一人当たり平均11冊）について、平成30年度以降も10冊以上を維持する。

## 3 「自主自律の精神」を深化させるための教育システムの再構築

- (1) 学校行事を中心に「自主自律の精神」を育成するシステムを充実させる。（違いを認め共に生きる力、協調性、豊かな感性）
  - (2) 部活動・同好会活動を中心に「自主自律の精神」を育成するシステムを充実させる。（健康・体力の向上）
  - (3) 生徒会活動を中心に、生徒自らが規範意識やモラルを高めることができる取組みを実施する。
- ※遅刻件数（平成29年度生徒一人当たり平均年間2.7回）を2019年度までに生徒一人当たり平均年間1.5回にする。

## 4 教員の授業力向上のためのシステムの構築

- (1) 教科会議の充実（教科の目標設定と総括、研究授業）・相互授業見学の充実・大学等との連携の深化
- ※授業観察の際の生徒アンケートにおける授業信頼度平均88%以上を維持する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「高い志」の涵養を図る教育システムの再構築	<p>(1) 「グローバル」に視点を置いた取組み</p> <p>ア Brothers &amp; Sisters プログラム及び事前学習の充実、海外宿泊野外行事及び事後学習の充実</p> <p>イ 英語教育の内容のさらなる充実</p> <p>(2) 「高い志」を涵養し持続させるための取組み</p> <p>ア 卒業生との連携の強化による取組みの充実</p> <p>イ 課題研究の充実</p>	<p>(1) ア 長期留学生の受入れ、海外からの研修旅行生との交流、第1学年全員を対象とした大阪大学等の留学生との交流により、アジアを中心とした異文化理解や他国理解を深める。また、生徒の企画運営による事前学習を重ねて、宿泊野外行事へとつなげる。 第2学年の宿泊野外行事においては、学校交流とともに現地日本企業等の協力による取組みを重視する。また、事前学習や現地で学んだ内容を課題研究等につなげる。 イ 4技能(5領域)を総合的に育成する英語教育の確立に向け、授業内容をさらに充実させるとともに、外部検定を導入する。また、英語イマージョンプログラムを継続発展させる。</p> <p>(2) ア 本校卒業生の人材ネットワークを広げ、学問及び社会に対する興味・関心を高める取組みを充実させる。 ・卒業生講座及び学問発見講座を継続させる。また、「スプリングセミナー」等も含めて、卒業生によるキャリア教育に資する講演会や講座を実施する。 ・京都大学を中心に卒業生の研究室訪問を継続する。 ・関東方面への大学見学会を継続させる。その際の卒業生との連携を強化し、より広い視野で進路を考える場とする。 イ 大学の先生等の協力を得ることによって、2年生全員を対象として実施する課題研究の質を高める。</p>	<p>(1) ア 交流する大阪大学等留学生数50名以上(平成29年度57名) ・宿泊野外行事終了後の生徒アンケートにおける満足度90%以上(平成29年度91%) イ イマージョンプログラムへの参加生徒80名以上(平成29年度146名) ・参加生徒のアンケートにおける満足度90%以上(平成29年度95%)</p> <p>(2) ア キャリア教育に資する卒業生の講演会や講座の数6以上(平成29年度14) ・卒業生の研究室訪問5か所以上(平成29年度8か所) ・関東方面への大学見学会の参加生徒20名程度、支援する卒業生20名以上(平成29年度参加生徒19名、支援する卒業生30名) ・各取組みに対する生徒の満足度80%以上(平成29年度学問発見講座94%、卒業生講座94%、卒業生の研究室訪問100%、関東方面への大学見学会100%) イ 大学の先生等に課題研究や課題研究につながる授業に協力していただく回数20回以上(平成29年度20回)</p>	
2 3 「二兎を追うたくましさ」を育成する「自主自律の精神」を深化させるための教育システムの再構築	<p>(1) 「二兎を追うたくましさ」の育成とリーダーの育成</p> <p>ア リーダー育成プログラムⅠの充実</p> <p>イ リーダー育成プログラムⅡの充実</p> <p>ウ リーダー育成プログラムⅢの充実</p> <p>(2) 「二兎を追うたくましさ」の育成と「自主自律の精神」の育成</p> <p>ア 生活規律を高める精神の育成</p> <p>イ 自学自習の精神の育成</p>	<p>(1) ア 各部・同好会の部長等(40人程度)に対して、リーダーとしての資質を高めていくプログラムを充実させる。リーダー論やコーチングの手法、人間関係トレーニング等についての講演等を実施する。 イ 各クラスHR委員(50人程度)に対して、HR行事・学年行事・学校行事等の企画力を育成するプログラムを充実させる。紛争解決能力やリーダーとしての資質を高める内容を重視する。 ウ 部活動に参加する部員を対象に、理学療法士による指導・支援を定期的実施する。健康を自己管理する能力を高めるとともに、高い志を持ち、諸活動において良い結果を出せるよう取り組む。</p> <p>(2) ア 生徒が自らを律する力を高めることができるよう、遅刻に対する指導等を強化する。 イ 自学自習の精神の育成のため、担任、教科担当者、部顧問からの指導を徹底する。そのための支援として年間を通じて自習室を開設する。また、読書指導を推進する。</p>	<p>(1) ア リーダー育成プログラムⅠの実施回数10回以上(平成29年度11回) ・参加生徒のアンケートにおける満足度80%以上(平成29年度92%) イ リーダー育成プログラムⅡの実施回数8回以上(平成29年度9回) ・参加生徒のアンケートにおける満足度80%以上(平成29年度90%) ウ リーダー育成プログラムⅢの実施回数10回以上(平成29年度12回) ・参加生徒数のべ900名以上(平成29年度903名) ・支援する理学療法士のべ180名以上(平成29年度190名) ・スポーツ振興センター手続き件数120件以下(平成29年度118件)</p> <p>(2) ア 遅刻数一人当たり平均年間2.0回以下(平成29年度2.7回) イ 一人当たりの平均読書量年間10冊以上(平成29年度11冊)</p>	
4 教員の授業力向上のためのシステムの構築	<p>(1) 授業力向上のためのシステムの充実</p> <p>ア 教科会議の充実及び研究授業の実施</p> <p>イ 教員相互の授業評価の充実</p> <p>ウ 管理職による授業評価の充実</p> <p>エ 「働き方改革」の推進</p>	<p>(1) ア 大学入学共通テスト、次期学習指導要領等の研究を進め、臨機に対応する。また、教科会議を授業力向上のための研修の場として位置付けるとともに、研究授業を行うことにより、教科としての授業力向上をはかる。 イ バディシステムを継続実施し、互見授業により教員の授業力を向上させる。 ウ 全教員の授業観察の際に、管理職によるアンケートを生徒に実施・分析し、授業アンケートとともに授業力を把握する材料とする。 エ 「働き方改革」の方策を検討するための核となる組織を立ち上げる。</p>	<p>(1) ア 全教科で研究授業年1回以上実施(平成29年度1回) イ 互見授業教員一人当たり平均年2回以上(平成29年度2.8回) ウ 生徒からの授業信頼度88%以上(平成29年度88%) エ 組織の会議年2回以上実施</p>	